

『私は、M&Aについてこのように考える』

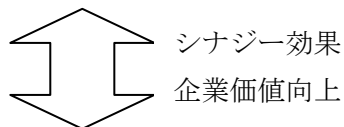
富士ソフト株式会社
代表取締役会長兼社長 野 澤 宏

1. 富士ソフトとM&A

当社は「M」合併と「A」買収の両方を経験している。
子会社化した会社は全て順調、シナジー効果を享受している。
→ 今後も積極的にM&Aを考える。

2. M&Aについての考え

- 【目的】
- (1) 本業を強化できる企業
 - (2) 本体と補完する力を持つ企業
 - (3) 投資回収が可能な企業



- 【ポイント】
- (1) 時間を買う
 - (2) 技術を買う
 - (3) 人材を買う
 - (4) マーケットを買う
 - (5) 企業規模を買う
 - (6) 資産価値を買う

◎M&Aは狙った通りにはいかない。
鹿を追っていて、途中イノシシに出遭ったら、イノシシを撃つ。
→ ビジネスチャンス逃さない。

◎M&Aは臓器移植と同じ。
はじめは拒絶反応など様々な症状が出る。
融合して機能するまでには時間を要する。

3. 討議テーマ

(1) 企業経営者の意識は変わっているか

以前まで会社は、経営者のもの・社員のもの・地域のもの という意識が強かったが、現代は必要に応じ会社を売買の対象と考える経営者が増えてきた。若い経営者は、積極的に制度を活用し、企業価値を短期間で高めている。

(2) M&A活動の進展によって、日本の経済社会はどのように変わるか

変革のスピードとダイナミズム、経済構造の柔軟性が得られる。
グローバルな動きにあわせて選択と集中が図れる。

(3) 持続的経済成長に向けて、わが国のM&Aが抱える課題

ルールがしっかりと整備されていれば、敵対的買収があってもよいのではないか。

単なるファンドの金儲けの対象とならないよう、そこに働く人たちや取引先のためになるような節度あるルールが必要。

同時に、政治や監督官庁がスピードについていけるかが課題。

以 上

MEMO